

メロンの接ぎ木苗生産において断根挿し接ぎ法は省力的である

[要約]断根挿し接ぎ法はメロンの接ぎ木苗生産に要する作業時間が少なく、省力的である。本法は居接ぎ法に比べると、接ぎ木の活着までに3日程度多く要し、苗の生育がやや遅れるが、定植後の生育や収量・品質は同程度である。

農業総合センター 園芸研究所

成果区分

技術情報

1. 背景・ねらい

メロンつる割病の発生とともに接ぎ木苗の利用が増加しており、県内の接ぎ木栽培面積は約400haにおよぶ。接ぎ木購入苗は高価であり、また農薬使用回数や輸送時の低温などの問題があるため、近年は自家接ぎ木苗の導入が増加している。

そこで、簡便で良質な接ぎ木苗の安定生産技術を確立する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 接ぎ木苗生産に要する作業時間において、挿し接ぎはチューブ接ぎより接ぎ木作業時間が少なく、断根接ぎは居接ぎより挿し木・鉢上げ時間が少ない。よって、断根挿し接ぎが最も作業時間が少ない(図1)。
- 2) 断根挿し接ぎの活着程度は接ぎ木後4日目では居接ぎより劣るが、接ぎ木後7日目には同程度になる。断根挿し継ぎの活着率は居接ぎと同程度である。接ぎ木後20日目の葉の大きさや乾物重は断根接ぎが居接ぎより小さい(表1)。
- 3) 接ぎ木栽培における定植後の生育、果重および果実品質には接ぎ木方法の違いによる差はない(表2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 自家接ぎ木苗に要する経費は労賃(時給1000円で計算)を含めても株当たり90円程度であり、購入苗の約1/2である。
- 2) 台木品種により胚軸の太さが異なるので、接ぎ木時に適当な胚軸径となるように、台木品種の播種時期を調節する(平成18年主要成果)。
- 3) 接ぎ木後の養生管理については「メロンの接ぎ木苗生産における養生管理方法」(平成20年度主要成果候補)に基づき適切に管理する。

4. 具体的データ

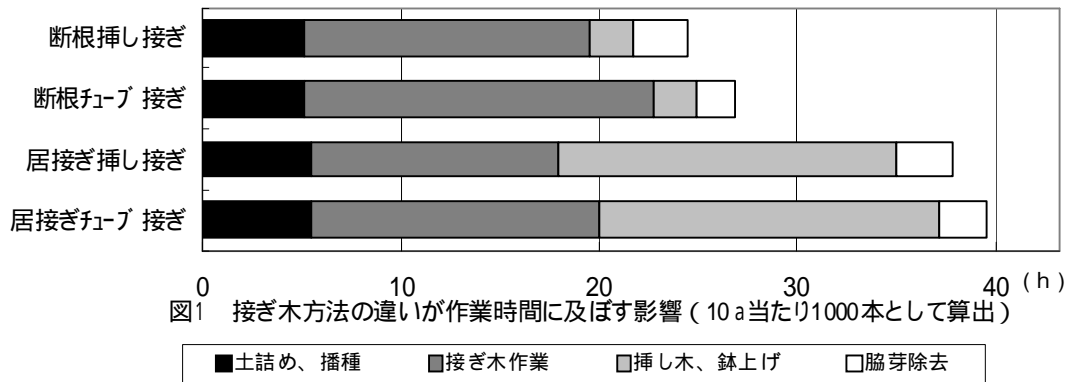


図1 接ぎ木方法の違いが作業時間に及ぼす影響 (10a当たり1000本として算出)

表1 接ぎ木方法の違いが接ぎ木苗の活着と生育に及ぼす影響

試験区名	活着程度 ²⁾		活着率 (%)	接ぎ木後20日目の葉の大きさと乾物重				
	接ぎ木後4日目	接ぎ木後7日目		葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	茎葉部乾物重 (mg)	根部乾物重 (mg)
断根挿し接ぎ	2.0	2.6	94	2.2	6.2	8.0	515	26
断根チューブ接ぎ	1.9	2.1	78	2.0	5.6	6.9	331	18
居接ぎ挿し接ぎ	2.6	2.6	97	3.0	7.7	10.2	699	39
居接ぎチューブ接ぎ	2.8	2.8	97	2.8	7.7	10.1	598	44

注1) 接ぎ木日: 2008,10/10、接ぎ木後4日目まで遮光トンネル密閉で管理

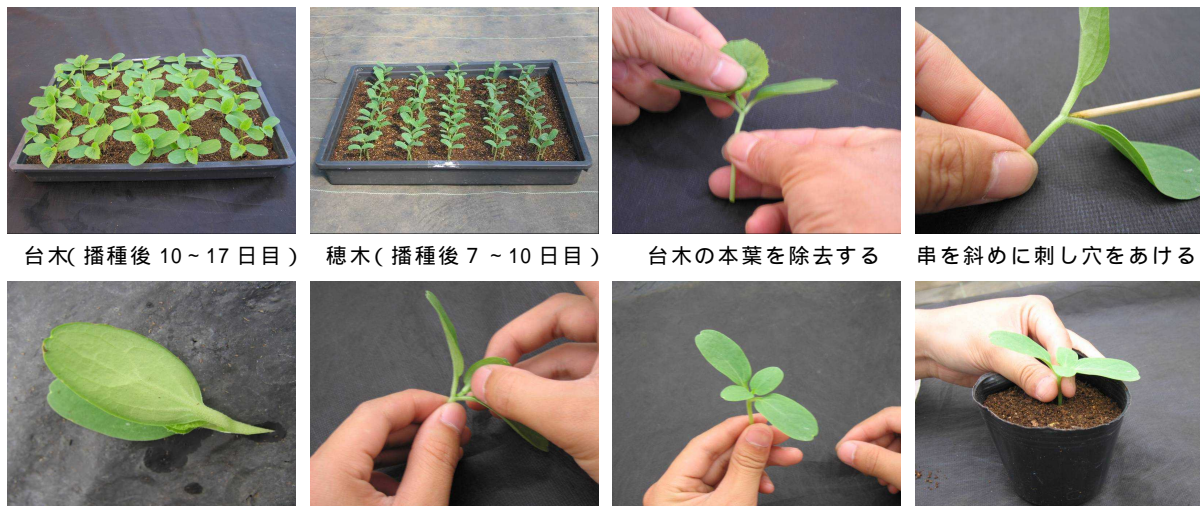
2) 活着程度: 活着(3)、ややおれ(2)、しおれ(1)、激しいしおれ~枯死(0)

表2 メロンの接ぎ木栽培¹⁾における接ぎ木方法の違いが生育、果重および果実品質に及ぼす影響

試験区名	第20節交配日 (月/日)	着果節位 (節)	果重 (g)	果形比 ²⁾	ネット ³⁾			果肉厚	硬度 (kg)	糖度 (Brix%)
					張	盛	揃			
断根挿し接ぎ	3/2	20.4	1147	0.95	6	3	6	39	1.11	16.3
居接ぎ挿し接ぎ	3/2	20.0	1161	0.94	6	3	6	37	1.13	16.0

注1) 供試品種: 「ひたち交3号」、台木品種: 「Yガード」、定植: 2007,12/27

2) 果高/果径、3) 張:密、盛:高、揃:良(9) (1)張:粗、盛:低、揃:悪



台木(播種後10~17日目)

穂木(播種後7~10日目)

台木の本葉を除去する

串を斜めに刺し穴をあける

穂木は子葉下で斜めに切断

切断面を下にして挿し込む

挿し終わったところ

ポットに挿し木する

図2 断根挿し接ぎ法の手順

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

メロン「ひたち交3号」の高品質安定生産技術の確立・平成20~23年度・メロングループ